

無聊吟社句集

髮剃りて風邪引くまいぞ初時雨
 武藏野に不二見て寒し神無月
 物買ひに褰着て出るや夕時雨
 寒月や共同墓地の石地藏
 木枯や鴉の啼て夕暮るゝ
 初冬や風に晴れたる時雨空
 散る木の葉戸口うめて山の家
 木枯や木挽の小屋も傾むきて
 日は西に土橋渡れば薔麥の花
 初冬や淋しき花の咲きのころ
 小春日や草の實を干す新聞紙
 小春日や祝詞の聲のうらかに
 物置の日向や白き歸り花
 雲去りて夕空高し赤とんぼ
 朝寒や築をこぼるゝ水の音
 山の端や時雨の後の月細き
 宿引の世辭も頼母し秋の暮
 筆置て小窓覗くや月の廣
 枯れ果てゝ月も宿らぬ世かな
 鷄啼え山茶花の散る小庭かな
 物聞て涙騒しめ鉢叩

鹽野奇零

湖 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 月 月 水 松 子 松 子 女 巷 巷 松 巷 巷 巷 巷
 清 同 同 古 同 同 ち 同 同 霞 同 秀 同 同 三 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

長き夜の葉や藤に古今集
 辻堂に木の實拾ふや村の子等
 冬の月隔離病舎の壁白き
 落付かぬ足の運びや年の暮
 庭掃て酒温むる時雨かな
 今掃た小庭の淋し初時雨
 吹きつけた木の葉を焚きて夕時雨
 つくねんと鶺鴒一羽や冬の雨
 風もなく婆娑と落ちたる木の實かな
 老ひし人の悟り顔なり茶の頭巾
 稻刈りて肌寒げなる案山子かな
 小春縁留守居の婆々の糸車
 住み馴れた家に離れて師走かな
 朝寒や壁にしみたる雨の漏り
 一日を思案にくれて冬の雨
 思ひ出す旅の昔や小夜時雨

同 同

